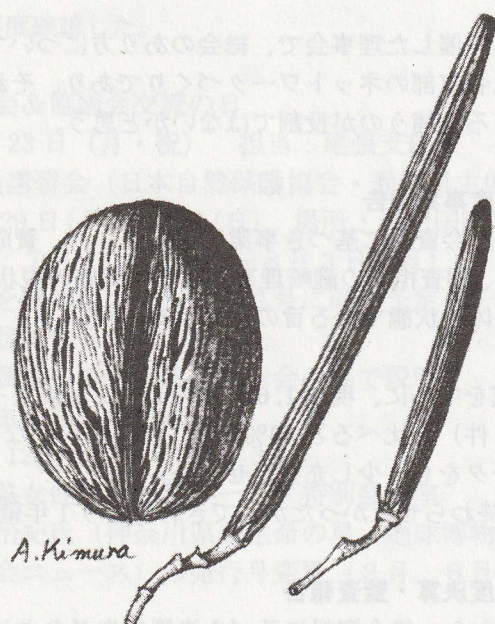


協議会ニュース 147号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2015. 6



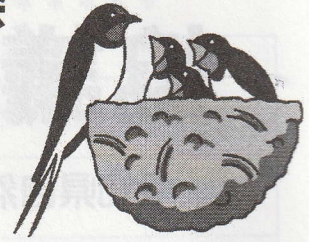
オキナワキョウチクトウの実 木村 絢子（尾張支部）

【報告】平成27年度 総会報告	編集担当	久米 未祐	……2
講演「インタープリターの地球一周」	尾張支部	久米 未祐	……4
「いがりまさし」の目から鱗の植物写真	尾張支部	山田 博一	……5
【連載】私の活動紹介	知多支部	平田 秀彦	……6
海外のインタープリテーション	東三河支部	中西 正	……7
第2話 ノルウェーの森の観察			
【支部総会報告】名古屋支部	名古屋支部	滝田 久憲	……8
知多支部	知多支部	水野 恭志	
西三河支部	西三河支部	三田 孝	……9
【お知らせ】協議会ニュースがA4サイズになります！			
【理事会報告】平成26年第5回理事会	事務局	石原 則義	……10
平成27年第1回理事会	編集担当	久米 未祐	……11
行事案内 / 編集部から			……12
【折込】自然観察会のレクリエーション傷害保険について	保険担当	布目 均	

平成 27 年度 通常総会

日 時 : 平成 27 年 3 月 21 日(土・祝) 13:30～

場 所 : 名古屋中小企業振興会館



●開会

大谷会長の挨拶に続き、総会の議長として降幡副会長を選出。

(大谷会長)

本日の午前中に開催した理事会で、総会のあり方について意見が出された。本協議会の主な目的は各支部のネットワークづくりであり、それぞれの良いところを活かし、苦手なところを補うのが役割ではないかと思う。

●第 1 号議案 平成26年度事業報告

石原事務局長から、総会資料に基づき事業報告がなされ、賛成多数で承認された。

なお事業報告として、調査担当の瀧崎理事からタケ調査の現状*について、また浅井理事からは奥三河支部が休会状態である旨の報告があった。

* タケ調査の現状

- ・ 尾張、知多地域を中心に、現在 1,645 件のデータが集まっている。
- ・ 目標(約 4,000 件)と比べると 40%程度。80%くらいないと信憑性が薄い。
- ・ 三河地域のデータをもう少し充実させたい。
- ・ 平成 26 年度で終わらせたかったが、できればもう 1 年継続させてほしい。

●第 2 号議案 平成26年度決算・監査報告

会計担当の吉田理事から、総会資料に基づき決算報告がなされた。

榊原・河江両監事から、単純な計算ミスはあったものの、他は適正に処理されているとの監査報告がなされ、賛成多数で承認された。

なお、当日配布した総会資料の一部に誤りがあり、会員から訂正の理由について質問があった。会計担当からは、「監査日の当日に計算ミスが分かったが、その際は資料の印刷後で訂正が間に合わなかった。」との回答があり、協議会ニュース 6 月号に訂正版を同封することとなった。

●第 3 号議案 役員紹介

石原事務局長から、役員改選期ではないため昨年度と同様である旨の報告があり、各役員から簡単な自己紹介があった。

●第 4 号議案 平成27年度事業計画

石原事務局長から、総会資料に基づき事業計画案が提案され、賛成多数で承認された。

なお、会員から、協議会ニュースの規格(大きさ)について B 5 から A 4 に、また文字サイズも大きく変更してはどうかとの提案があり、降幡議長が編集や発送に関わる会員等からも意見を聞いた結果、出席者の賛成多数で承認された。(詳細は 9 ページへ)

●第5号議案 平成27年度予算案

会計担当の吉田理事から総会資料に基づき予算案が提案され、賛成多数で承認された。

当日配布した総会資料の一部に誤りがあったため、協議会ニュース6月号に訂正版を同封することとなった。

●その他

＜故 佐藤國彦氏の資料の電子化について＞

佐藤國彦氏が生前に作成した資料の電子化について、尾張支部の山田博一会員から以下のとおり報告があった。

（尾張支部 山田博一会員）

- ・生前、佐藤氏から、本協議会名で作成した資料を電子化してほしいとの話があり、平成26年4～5月頃、3回に分けて資料が郵送されてきた。
- ・資料の発行元となっている愛知県に確認したところ、県が有償配布していないものは公開してよいが、本協議会総会の承認に基づく依頼が必要とのことだった。

会員からは「資料の発行元は県だけでなく民間団体もある。別途確認が必要。」との意見が出された。発行元への確認も含む資料の電子化については山田会員に一任し、今後の活用方法については理事会で検討することが出席者の賛成多数で承認された。

＜余剰金の使い方等について＞

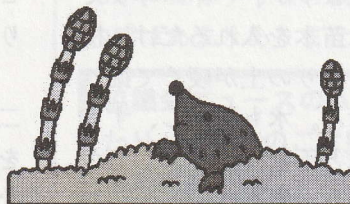
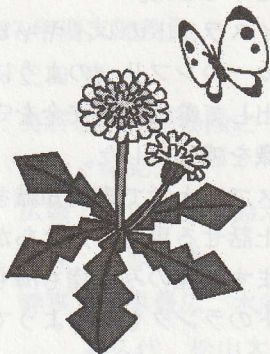
会員から、フィールドセミナー「目から鱗の植物写真」について「余剰金があるのに参加費を徴収するのはなぜか」という質問があり、石原事務局長から「不特定多数の人が参加する研修は無料としているが、今回は定員があるため受益者負担として参加費を徴収することとした。余剰金については今後も研修会等を企画・実施することで使っていきたい」との説明があった。

降幡議長からは、「会員の希望や意識調査をする必要があることは理事会でも話題になっており、余剰金の使い方を含めて今後検討したい。本協議会をより風通しの良い会としていきたい。」との話があった。

●閉会

《総会終了後、講演会と懇親会を開催》

講演会報告については、
4ページをご覧ください。



（記録：久米）

インタープリターの地球一周

講師：中西 正会員（東三河支部）

レポート：尾張支部 久米 未祐

平成 27 年度の総会后、中西会員を講師として講演が行われました。

たくさんの写真を見ながら語られる思い出やさまざまな生物の話は、楽しくも興味深い内容でした。

1 船の上で出会った生物

約 3 か月半の長い道中で、陸に上がったのは 20 日間程度。あとは、ほとんど船上で過ごしますが、意外に多くの生物を目にすることができました。疲れて羽根を休めるツバメ、島の近くにはカツオドリの仲間。海では広範囲でイルカの群れに遭遇し、北に近いカリフォルニア付近ではクジラも見ることができました。

また、同じ船に乗り合わせたニンゲンたちも観察してみると、みんな思い思いに過ごしていました。

2 世界の植林事情

陸に上がった時には植林も行いました。

ベネズエラは森が開拓された後に放置された場所が多く、植林が活発な国です。キューバやグアテマラなど近隣諸国の高校生や環境副大臣も含めたベネズエラの人々とともに植林をしました。

日本の植林イベントでは狭い区画にたくさんの苗木を植えた後、土で根本をしっかりと覆い、水も与えますが、ベネズエラでは予め掘られた穴に苗木を入れるだけ。根本を覆いたくても、周りの土が硬くて掘り返すことができません。水もないし、すぐ流れてしまうのではと不安になりましたが、作業終了後に雨が降り、風も吹いて土が舞い上がって根本を覆っていました。



▲中西 正氏

ガラパゴスでは地元の高校生とともに植林を行いました。こちらも予め穴は掘ってあるのですが、土を被せる際、周りを掘り起こそうとすると、石がごろごろ、草木の根っこも多く、難儀しました。

ガラパゴス島はその豊かな生態系を守るため入島料をとられますが、背景には外来種の増加もあるようです。

3 世界のガイドたち

イタリアのシチリア島にあるエトナ山でトレッキングツアーに参加しましたが、ガイドはツアーの中にいた女性の相手に夢中で、他の参加者のことはあまり考えていないようでした。

また、ノルウェーでは大学生のアルバイトがガイドをしていましたが、資料を棒読みしているだけでした。

一方、アイスランドのレイキャビクのガイドはサッカーのレフリーのようにキビキビと指示を出して参加者の安全を守っており、プロ意識を感じました。

ガラパゴスでは大学で専門知識を学び、二か国語以上話せる現地の人たちがガイドを務めています。陸のみ、陸も海も話せるなど、ガイドのランクもあるようでした。

【セミナー報告】

「いがりまさし」の目から鱗の植物写真

日時：4月5日（日）場所：海上の森

尾張支部 山田博一

セミナーの前に見せてもらったいがりさんの車の宿泊設備がすごい！全国各地に植物写真ワークショップやライブにまわっているの、家に泊まるより車中泊が多いため車中泊シフトを取っているそうです。

あいにくの雨の中、「雨には雨の良さがある」との挨拶で始まりました。まず、霧を写すためには、焦点を望遠にして、プラス補正にする、すると見事な霧が浮かびあがりました。次に、水平にして黒っぽい背景を入れ、バックを上手く処理すると、見事、対象となる植物が浮かびあがりました。小さい対象ほどバックがボケやすい。小さな花を浮かびあがらすためのバックの処理は基本です。具体的には、望遠にして絞りを開いて被写界深度を浅くしていました。



セミナーの開始

一方、普通のデジカメの特性を活かすためには、広角にして空を入れると、小さな花を主役にしても、奥行きのある写真が撮れました。コンデジは、ファインダーをの

ぞいた時の設定露出と液晶画面にした時の□（四角）の中の部分測光で露出が違うという盲点を教えてもらいました。

撮影できるツールも教えてもらいました。フリップバックアングルビューファインダーは鏡を使って簡単にバリアングルファインダーにできます。UN モニタリング Pro は明るい炎天下でもファインダーを見やすくします。手作りの紐と2個の洗濯バサミは雑草をよけて撮影できます。



うまく撮れるかな？

二輪の花をまとめて撮影する時、同じ面にそろえる。接写は被写体の後ろに空間を作る。白い花が見にくい場合はマイナス補正をかける。背景が空ならプラス補正を。植物撮影は、写すだけでなく、対比でメリハリを付ける。具体的に、「新緑と枯れ葉」、「花と葉」、「葉と水滴」など、どれも私にとって「目から鱗」でした。最後の「写真の基本は逆光！逆光が一番美しい」というまとめは、順光で絞って被写界深度を稼ぐだけの私の写真の癖を根底から覆しました。帰り道、すばらしい自然に触れると、感性が豊かなら、「写真だけでなくすばらしい文章が書ける」、「心に響く音楽表現ができる」というインタープリターの根幹にふれる話は印象的でした。

私の活動紹介

知多支部 平田 秀彦

活動?・・・?というより「遊んでいる」あるいは「遊んでもらっている」が正しいようです。

還暦を迎える頃、旧知の友人曰く「夜、犬を散歩させていたら、ヒメボタルなるものを初めて見た。ピカッ・ピカッとフラッシュ発光する。日本固有種で陸生。結構アチコチに棲息しているのだが余り知られていなくて、云々」

アウトドアや生きものに疎い私は「フム、フム」と生返事を返すばかり。一方、気が多いのも確かでアレコレ摘み食いをするも極めたものが何一つない私。そうこうするうちに友人は、やれ幼虫調査だのやれフォーラムだのと誘い出す。

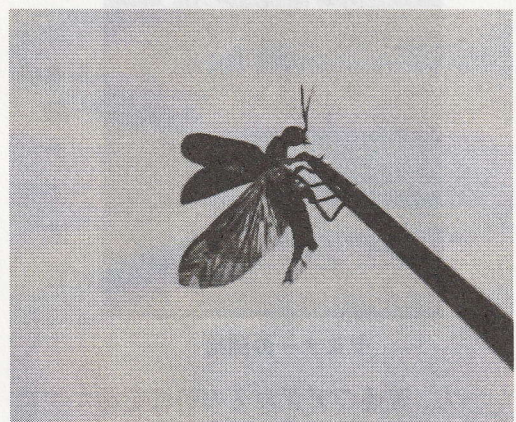
蛍の輪郭がぼんやり見えた頃、縁あって知多自然観察会にお世話になりました。ナントそこにはホタルの先達が何人もおられ、ここでもまた教えを請う機会に恵まれました。

また、知多半島では3か所（東海市、東浦町、美浜町）でヒメボタル観察会が開催され、しかも「市町が主催している」と聞いてこれまたビックリ。阿久比町では町を挙げてヘイケボタルを守っています。ホタルに限らず、知多半島で自然に関心を持ち熱心に観察調査研究される方々のお蔭と思われます。

日本には40余種ものホタルのうち水生のホタルはゲンジボタル、ヘイケボタル、クメジマボタルの3種のみで、あとはみんな陸生ホタルというから

「蛍⇒水⇒カワニナ」という図式は殆ど当てはまりません。まして“昼間に飛ぶ”、“光らない”、“冬に光る”、“幼虫のままのような外観の雌成虫”とくると、もう・・・○×△※◆◎★?……。という訳で、ホタル愛好者の調査旅行に参加することがあります。こんなことでもなければ凡そ訪れる機会もなかろうと思われる地へ「蛍探検隊」と銘打って。私にとっては半ば観光旅行ですが。

ところが昼日中、「ホラッ、そこそこ、マド（ボタル）が飛んでいる」と指されても私の眼には認識不能で、手にした捕虫網も振るに振れず、心地よい? ストレスが溜まりますが、フィールドで実物に触れて謎解きをしようとする意気込みの観察者の背中を見る時、私は元気を貰います。



▲ヒメボタル ♀

連載 世界のインタープリテーション

第2話 ノルウェーの森の観察

東三河支部 中西 正

2. ノルウェーの森の観察

ノルウェーでは「ノルウェーの自然体験ハイキング」に参加した。目的地はオスロの西約 40km のドーメン郊外である。

ドーメンの街はきれいだった。丘陵地の斜面にある住宅は橙色の屋根や灰色がかった壁と、落ち着いた色で統一されている。その色彩は、周辺の緑の中に映える。市内は、病院など一部はコンクリートの建物だが、他は高さが低く、教会が目立つ程度である。街路樹はボダイジュが多く、小さな町だが太い木が連なっている。この街並みはドラム川の岸に沿って存在し、土地は川に向かって傾斜をなしている。この街をハイキング中に上から眺めたが、ドラム川の青さと周辺の緑と建物が調和していた。ここは環境を守るための環境税が課せられているといい、建物の色なども勝手には決められないということだった。

町の北側をバスで上ると市街地はすぐ途切れ、自然地域になった。マツの二次林の様な林の連続で、明るい感じがする。ハイキングの出发点には山小屋があり、ワッフルとコーヒーが用意されていた。標高はほぼ 360m、南はずっと低く、森が広がっている。すぐ下には小さな湖がある。バスの行程や前日のヨーテボリでは見なかった針葉樹の森で、アカマツかトウヒの群落になっている。この小屋の周辺にはフウロ、ビオラ、ニガナ、キキョウ、ミヤマクワガタなどの仲間が咲いている。景色のよさと天気の良いさで、すでに皆満足気味である。地元の新聞とテレビの記者が取材に来ていた。外国人がハイキングに来ることは珍しいのかもしれない。

コースは 4.5 km、2 時間コースで、市街地を目指して下る。ここでは若い女性の現地ガイドがついた。彼女に、自然の解説をするのに特別な資格がいるのかと聞いたが、特別にそのようなものはないようで、アルバイトの大学生のようだった。全く気楽なスタイルである。質問を受けるというより、ポイントで用意した原稿を読むといった感じで、自然の解説はなかった。我々にもよくあることだが、話をする時に参加者の方向を向いていないことがあったり、通訳とガイドが話し込み、質問のタイミングが計られないことがあったりした。出発地のすぐ下にある湖、夏の水泳所ということだった。一見人工の池かと思ったが、自然のもので、堤防と思えるようなコンクリートの壁は障害者でも水辺に降りられるためのスロープだった。

下りきったところに教会と墓地があった。丁度葬儀が行われたところだろう。黒の式服を着た人が大勢いた。そのお墓はシバが張られ、大きな木が散在する。年配の参加者が、日本みたいに鬱蒼としていない、と言っていた。大きくない墓石の前には花がある。切り花かと思ったが、どうも植えてあるようだった。引率者は気を利かせ「写真を撮ったり、大きな声を出したりしないようにしてください」と言った。



ドーメンを見降ろしての説明

名古屋支部総会 報告

名古屋支部 滝田 久憲

日時：2月22日（日）14：00～16：30

場所：あいちNPO交流プラザ
（ウィルあいち2階）

平成27年度名古屋支部総会が2月22日（日）午後2時から、名古屋市東区のウィルあいちの2階にある、あいちNPO交流プラザの会議室で開催されました。当日の出席者は25名（欠席委任状44名）で、支部長の挨拶の後、議長に浅井会員が選出され、議事が進められました。最初に平成26年度の事業報告がなされ、昨年11月に開催されたESDユネスコ世界会議の関連事業などが報告されました。続いて会計報告がなされ、共に承認されました。

また、今年度は役員の改選期に当たりますが、当日の立候補者がいないことから、事務局より提案された新体制が信任されました。次に、平成27年度の事業計画、さらにそれを実施するための事業予算が議論され承認されました。

総会終了後、愛知教育大学の島田知彦氏により、「愛知の両生類の今」と題した講演会が行われ、愛知のサンショウウオやカエルの生態などが紹介されました。

名古屋支部 平成27年度役員

支部長：滝田 久憲

副支部長：石原 則義、大澤 淳二、
近藤 記巳子、高松 一史、
滝川 正子、布目 均、
萩原 育男、巾 賢治、
堀田 守

会 計：新山 雅一

知多支部総会 報告

知多支部 水野 恭志

日時：2月8日（日）9：35～11：40

場所：阿久比町勤労福祉センター
（エスペランス丸山）

平成27年度の知多支部総会は、昨年と同様に阿久比町の勤労福祉センターで開催されました。当日の出席者は、会員総数92名に対し32名（欠席委任状45名）でした。

副会長の開会のことば、代表挨拶の後、出席者全員の自己紹介、議長・書記の選出に続き、庶務による支部行事報告、各ブロック世話役によるブロック活動の報告、HPに関する事、研修、調査、会計報告がなされました。引き続き、新役員が選出され、新年度事業計画案、予算案ともに満場一致で承認されました。

平成27年度代表に選任された南川会員は、「観察会は、安全を一番に考え今年度同様事故等ないように実施してほしい。また観察会だけでなく環境保全についても今後は会の活動として実施し、HP等で情報発信していきたい。」と会員に呼びかけました。

知多支部 平成27年度役員

顧問：降幡 光宏

代 表：南川 陸夫

副代表：榊原 正躬、榊原 靖

庶 務：平田 秀彦

会 計：森田 琢磨

西三河支部総会報告

西三河支部 三田 孝

日 時：2月7日(土) 14:00～16:30

場 所：岡崎竜美丘会館

平成27年度の支部総会は会員19名が参加しました。平成26年度行事報告、会計報告のあと、平成27年度役員の選出、活動計画の検討を行いました。

新年度の観察会については会主催観察会を7回、3月香嵐溪(豊田)、5月小堤西池(刈谷)、6月六所山(豊田)、8月佐久島(西尾)、9月昭和の森(豊田)、11月面ノ木(豊田)、1月南公園(岡崎)企画しました。会員が主催する地域定例観察会は6ヶ所(くらがり溪谷、おかざき自然体験の森自然観察会、おかざき自然体験の森植物観察会、岡崎中央総合公園自然観察の里、平戸橋、西尾いきものふれあいの里の観察会)が継続されます。会員研修会は8月22日(土)に木曽福島の城山自然歩道で行うことを決定しました。

総会後は伴幸成さんの「西尾市八ツ面山におけるカシノナガキクイムシ」の調査報告と意見交換を実施しました。

なお、観察会の詳細はホームページ(www.nishimikawa.com)をご覧ください。

■平成27年度支部役員

会 長：三田 孝

副会長：奥居達朗、馬場隆之

事務局 会計：深見弘

広報：石川正雄、鈴木寛之

監査：山原勇雄

幹事：石黒豊広、水谷宗保、河江喜久代、松山太、山本博美

お知らせ

協議会ニュースが A4サイズになります！



149号から
(H27.12発行)

本誌2ページの総会報告でもお伝えしたとおり、協議会ニュースの規格(大きさ)をB5からA4に変更します。

会員の皆さんにより読みやすく、親しんでいただける紙面をめざし、平成27年12月発行予定の149号からA4サイズでお届けできるよう準備を進めているところです。

今回は、A4サイズ化に合わせて大きさを変更する予定の「文字サイズ」についてご紹介します。

今までの文字サイズ

今までは、原稿(本文)の文字サイズは原則10ポイントとしていました。

149号からの文字サイズ

平成27年12月発行予定の149号からは、原則12ポイントとする予定です。

並べてみると「12ポイントは大きすぎる！」と思われる方もいるかもしれませんが、A4サイズの紙に印刷されると違和感はあまりありません。お楽しみに！

協議会ニュースのA4サイズ化にあたり、皆様のご意見を募集します。
編集担当(久米)までご連絡ください。

平成 26 年度 第 5 回理事会 報告

日 時：平成 27 年 2 月 11 日（水・祝）13:30～16:30

場 所：名古屋市音楽プラザ

出席者：大谷、降幡、星野、石原、辻、吉田、久米、森田、永田、布目、石川、瀧崎、浅井、堀田、齋竹、滝田、南川、三田、寺本、河江（全員出席）

◆総会資料（案）の確認

総会資料（案）の内容を確認し、修正・追加等を行った。

<平成 26 年度事業報告及び収支決算報告から>

タケ調査の現状報告

- ・ 各支部会員の協力で集まったデータは目標としているデータ数の 40%程度。
- ・ 調査結果をどうまとめるのか。冊子等に印刷するなら予算化する必要あり。
- ・ 里山が整備されたため、調査時点と状況が変わった地域もある。

会費の未納金

- ・ 会費の未納金について、会計担当及び関係各支部長にて再度確認する。

<平成 27 年度事業（案）及び予算から>

機関紙（協議会ニュース）関係

➤ 平成 27 年度予算

機関紙の発送で利用しているクロネコメール便が 3 月末で廃止となることを受けて送料が上がるため、平成 27 年度予算を増やす必要あり。

➤ 発送先の確認・整理

- ・ 協議会ニュースの発送先を確認し、整理する必要がある。
- ・ 協議会あてに他機関から届く郵便物を理事会で共有し、協議会の活動を PR すべき機関があれば、協議会ニュースの発行先として追加を検討する。

◆その他

<故 佐藤國彦氏の資料の電子化>

尾張支部の山田博一会員からの話（生前、佐藤氏から、本協議会名で作成した資料の電子化について話があり、発行元の愛知県に確認したところ、本協議会の理事会及び総会での承認が必要とのことだった。）が伝えられ、理事会で承認。本件について、総会にかけることとなった。

<協議会の活動 PR>

大谷会長から、理事等が本協議会として参加している県の協議会や委員会等の活動を会員にも知ってもらいたいとの申し出があり、平成 27 年 3 月発行の協議会ニュース 146 号で紹介することとした。

<次回 理事会（平成 27 年第 1 回）>

日時：3 月 21 日（土・祝）10:00～ 場所：名古屋中小企業振興会館

（記録：石原、久米）

平成 27 年度 第 1 回理事会 報告

日 時：平成 27 年 3 月 21 日（土・祝）10:00～

場 所：名古屋中小企業振興会館（吹上ホール 4 F）

出席者：大谷、降幡、石原、吉田、久米、森田、永田、布目、石川、瀧崎、浅井、堀田、
滝田、南川、三田、寺本、榊原、河江

◆総会資料の再確認

総会の議案について再度確認した。

<主な確認事項>

- ・ 新指導員歓迎会&協議会交流の日
日時：11 月 23 日（月・祝） 担当：尾張支部
- ・ 自然観察指導員講習会（日本自然保護協会・愛知県主催、本協議会後援）
日時：8 月 29 日（土）～30 日（日） 場所：犬山国際ユースホテル（貸切）
申込み期間：7 月 13 日（月）～8 月 3 日（月）
案内チラシを協議会ニュース 6 月号に同封予定
- ・ タケ調査の現状報告
引き続いて調査を続行する旨を総会の場で説明。
- ・ 生物分類（昆虫分類）の研修会
日時：10 月 12 日（月・祝）13:30～
場所：愛知県女性総合センター 2 F 特別会議室
講師：苅部治紀氏（神奈川県立生命の星・地球博物館・主任研究員）
- ・ 機関誌「協議会ニュース」の発行月変更（3 月、6 月、9 月、12 月）

総会の開催について

理事から「各会員に総会の出席依頼を出し、欠席者からは委任状をもらうべきではないか」という意見があり、議論した内容は以下のとおり。

- ・ 本協議会の規約では、総会の成立に関して会員の出席率や委任状の提出等についての規定はない。
- ・ 過去に総会の出欠確認を行ったが回収率が 1 割に満たず、理事会の承認を得てやめることとした。総会の出席率を増やすため企画展示等を行ったこともあるが効果はなかった。
- ・ アンケート等で各会員の意識調査を行い、会員の声を反映させる取り組みは今後も必要。

◆その他

- ・ 機関紙は毎回最新の名簿に基づき発送しているが、顧問等については、宛先不明で返送されることもある。名簿情報の突合せが必要。（次回理事会で確認）

<次回 理事会（平成 27 年第 2 回）>

日時：5 月 6 日（水・祝）14:00～（名古屋支部担当）

（記録：石原、久米）

***** 行 事 案 内 (6月～8月) *****

区分	日時	内容	場所	集合場所	担当
あいちの 自然観察会	8/23(日) 9:30～11:30	矢勝川の 生き物観察	矢勝川・修農公民館(半田市)		知多
	8/23(日) 9:00～11:00	水辺の 生きもの	日進市	-	尾張
研修会	6/6(土)～ 6/7(日)	天生湿原	天生湿原	大池公園 (東海市)	知多
	8/22(土) 9:30～	初秋の花 50 種 を見よう	城山自然歩道	木曽福島駅前	西三河

◆自然観察指導員講習会

8/29(土)～30(日) 犬山国際ユースホステル(詳細は同封のチラシをご覧ください)

***** 編 集 部 か ら *****

◆協議会ニュースのサイズ変更(B5→A4)について

昭和57年の創刊以来、B5サイズでお届けしてきた機関紙「協議会ニュース」。

今年度の総会で、会員から、紙面(B5→A4)及び文字のサイズ変更について意見が出され、承認されました。(本誌2ページ参照)

これを受け編集部では、総会に参加されなかった会員の方々にもきちんとお伝えする期間を設けた上で、平成27年12月発行の149号から変更することができるよう準備を進めています。(本誌9ページ参照)

本件についてご意見やご助言等ありましたら、お気軽に編集部(久米)までメール等でご連絡ください。

<編集後記>

早いもので、機関紙の編集に携わるのも4年目となりました。初めは編集スタッフとして、昨年度からは編集部担当として関わるうちに、機関紙づくりは会員の皆様のご協力があってこそ成り立つのだということをつくづく実感しております。

原稿を執筆される方はもちろん、編集や発送に関わる方々、また企画段階でのアイデア出しや執筆者との調整をしてくださる支部長を始めとした理事の方々。さらに、機関紙を読み、より良いものにすべくご意見をくださる会員の皆様方!皆さん、本当にありがとうございます。心強い限りです。A4化、がんばります。(久米)

編集スタッフ	岡田雅子 久米未祐 馬場隆之 日浦誠章
「協議会ニュース」 編集部	久米未祐 TEL: 090-3302-1621 E-mail: ni.saboten@gmail.com

愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいち自然観察会)事務局 石原則義

〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 TEL/FAX: 052-711-3087

E-mail: noriyoshibob@yahoo.co.jp Web Page: <http://naichi.net>

郵便振替口座: 00820-9-6546 (名義: 愛知県自然観察指導員連絡協議会)